

| 項目 | 内容 |
|----------------------------------|--|
| ①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿 | <p>これからの学校には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。</p> <p>様々な社会的変化とあるが、日常生活の中にICTがあることが当たり前になっている現代社会において、ICTを受け身で捉えるのではなく、手段として積極的に活用していくことで学力や情報活用能力、メディアリテラシーの向上を図り、多様な社会の変化に自ら対応できる「生きる力」を育みたい。そのために、知識・技能の習得や、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力などの伸長、そして自ら学ぼうとする意欲と態度の育成を目指す。</p> |
| ②GIGA第1期の総括 | <p>山ノ内町では、令和2年度に管内小中学校に1人1台端末の整備及びネットワーク回線の整備を行い、令和3年度より本格運用となった。</p> <p>児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた教材ソフトを導入し児童生徒が自ら選択して学習を進めることができる環境になった。しかし、児童生徒が自分の考えをまとめ、共有できるような授業支援ソフト等のコンテンツが不足している状態であった。</p> <p>年数が進んでいくと、スペックの低さや端末の容量不足により活用の進捗が低下し、効率的な活用という点での課題が出てきた。</p> <p>また、学校間や担当職員による活用頻度の差が少なからずあったため、今後は、各校のICT担当者会議を実施し、継続的に意見交換等をしていく必要性がある。</p> |
| ③1人1台端末の利活用方策 | <p>【1人1台端末の活用】 ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意し、教育効果を考えながら有効に活用するため、ICT支援員による支援体制を整え、教職員間や学校間で活用事例を共有していく。</p> <p>【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 GIGA第1期では1人1台端末の導入により、児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた学習課題に取り組み、個別最適な学びを進めてきた。今後は、児童生徒が自分の考えを発表したり表現したりする場面や、児童生徒同士や教職員に対して、やり取りする場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。</p> <p>【学びの保障】 不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態や特性に応じた学習支援ツールの活用を検討する。 また、様々な事情により教室で学ぶことができない児童生徒に対してオンラインやオンデマンド形式での授業配信等も検討していく。</p> |